

.NETサンプルアプリの概要

(株)テクノ 2009.8.4

オープンMCとPCアプリは、アプリケーションライブラリ(DLL)を経由して接続できます。つまり、ユーザでは、モーションコントローラを制御する独自のPCアプリケーションを作成し、システムの差別化を推進できます。

このサンプルアプリでは、DLLの代表的な機能を使っています。また、そのソースファイルをもとにさらに独自機能を追加できます。

ソースファイルや関連資料は、テクノHPの会員コーナからダウンロードできます。

参考資料

アプリケーションガイダンス	T B 0 4 - 1 3 6 2
初めての方にイメージのご紹介	
.NET対応サンプルアプリケーション説明書	T B 0 0 - 0 9 1 8
VB.NET、C#、C++/CLIのサンプルソースのご説明	
サンプルアプリケーション説明書	T B 0 0 - 0 6 9 6
VC++6.0のサンプルソースのご説明	

製品シリーズ毎の設計資料

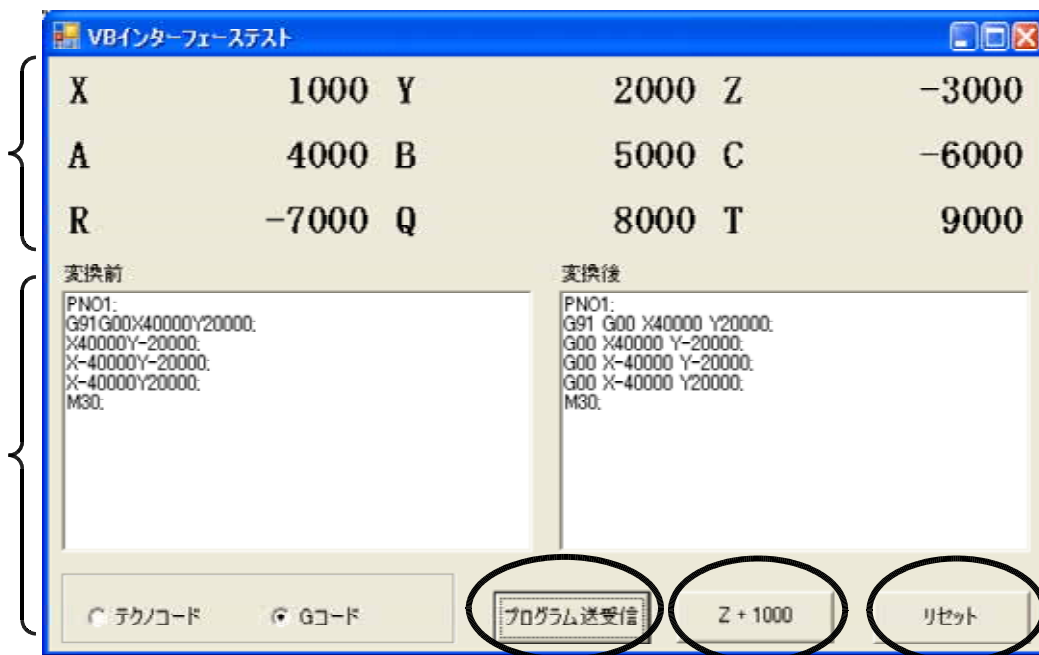
【SLM-4000の場合】

「SLM-4000 ユーザーズマニュアル」	(TB00-0800)
「標準SLMシステム対応 送受信データ説明書」	(TB00-0804)
「標準SLM通信ライブラリファシスマニュアル SLM-COMNT説明書」	(TB00-0803)
「標準SLM対応 テクノコード仕様テキストプログラム変換ライブラリ SLM-TCNV説明書」	(TB00-0805)
「標準SLM対応 Gコード仕様テキストプログラム変換ライブラリ SLM-GCNV説明書」	(TB00-0806)

その他の製品シリーズについては、HP上でご確認をお願いします。

1 VB.NET (VB2005)用サンプルアプリ画面

VB.NETで作成したサンプルアプリで、ライブラリ(DLL)の関数を使用した事例です。これと同様な方法でPCアプリからモーションコントローラの全ての機能を利用できます。



2 各機能 ~

ポジションのモニタリング

各軸ポジション情報を、定期的にモーションコントローラから読み出して表示しています。

運転プログラムの編集

運転プログラム(テクノ言語/G言語)を作成し、モーションコントローラとやり取りをします。

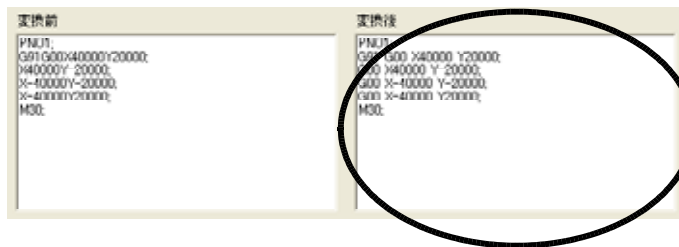
「変換前」のダイアログで、G言語やテクノ言語の運転プログラムをテキスト編集します。使用する言語に合わせて、ラジオボタンを選択してください。

「プログラム送受信」ボタン
これを押すと、以下の処理を行います。ソース上では、「バイナリ変換」「ダウンロード」
「アップロード」「テキスト変換」の各処理を確認できます。

変換前画面



- ・「変換前」に記述したテキストプログラムをバイナリデータに変換。
モーションコントローラ内では、運転プログラムデータはバイナリデータで管理
しているためバイナリデータに変換が必要です。
- ・変換したバイナリデータをモーションコントローラにダウンロード。(書き込み)
- ・ダウンロードしたバイナリデータをアップロード。(読み出し)
- ・アップロードしたバイナリデータをテキストに変換し、「変換後」に表示。



アップロード テキスト変換したデータを表示

変換エラー

記述したテキストプログラムに文法的なミスがあった場合は、「変換エラー」の
ダイアログを表示します。

Z軸のPTP移動

Z軸の+1000パルスの位置決め動作を行います。
移動量+1000パルスのPTP命令を発行しています。

リセット操作

モーションコントローラにリセットをかけます。
リセットをかけると、軸移動の中断・サーボON・アラームクリアーを行います。

3 その他の処理

サンプルアプリでは、内部的には以下の処理も行っています。

通信(イーサネットや232C)の初期化

EXの場合は、軸の有効・無効状態に応じて、ポジション表示。

4 VB.NET以外のサンプルアプリ

C#、C++/CLIのサンプル
VB6.0のサンプル
VC++6.0のサンプル

本書を参照下さい。
説明書がありませんが、本書が参考になります。
別紙TB00-0696を参照下さい。